

泉佐野住民の決意に応え 意気高くデモを貫徹!

7/23



全国から1600名の参加で盛りあがる野手浜海岸

七月二三日、大阪・泉佐野市野手浜海岸で開催された「新空港絶対反対全国集会」は、全国各地から一六〇〇名の仲間が結集、動労千葉からも二〇名が参加し闘ってきた。

機動隊に住民の激しい怒り集中

集会は、定刻三時より加辺氏(明石住民の会代表)の力強い開会あいさつではじまる。折からの猛烈な夕立のなかで全員がズブぬれになりながらも一時間半の集會に集中する。まず、基調報告が地元、

七・二三闘争は、泉佐野住民の注目と期待の中で圧倒的成功をかちとり今夏からの新たな闘いにむけての突破口を切り開いた。

泉州住民の会代表森田氏より提起。「昨年六・二六から一年経て再びこうして大結集している。決意新たに闘おう」と確信に満ちた方針が提起された。その後、泉佐野市議の国賀氏、淡路町反対同盟代表永井氏とつづいた。

永井氏は、機動隊の弾圧を弾劾したあと「彼らは夕立にざわつき右往左往し、雨がやんだら又ノコノコ出てきている。こんな機動隊に負けるはずがない!」と喝破するや会場内外から大拍手がおこった。

集会もボルテージが上がるなかで、都議選に勝利した長谷川氏、三里塚から北原・郡司両氏のあいさつとつづき、ひときわ大きな拍手の中で動労千葉を代表し水野副委員長が決意表明をおこなった。(別掲)

そのあと、八・六広島実行委、解放同盟荒本支部、婦民関西協議会、戸次氏(僧侶)、泉州住民の会、反戦、学生が発言し、最後に東灘区住民の会代表山本善偉氏が「住民の期待に必ず応える。言葉をかえした行動で。買収の山場として起ち上ろう。東の三里塚、西の関西新空港を一つの闘いとして人民の未来を切りひらくために頑張ろう」としめくくられ、ただちにデモに出発する。六キロのデモの随所で市民、住民の声援があった。不屈に闘う泉州住民、全関西の仲間と固く連帯し闘うこと



地域住民の見まもる中、空港反対のかけ声高くデモ。

を誓い帰路についた。帰りの行路で自民党の大敗北を知り全参加者は

職場にもどりがけを充満させて大いに闘いぬくことを決意した。

「全国交流センター」の形成・拡大を 水野副委員長、発言要旨

「結集したすべての皆さんと連帯し闘う。この闘いは必ず勝利すると確信する。自民党支配は根底から揺らいでいる。自民党離れは日ごと高まっており、民衆は闘うところに結集しようとしている。こうした時こそ労働戦線は民衆の先頭にたつべきだ。『連合』という逆流を突きぬけ、闘う者の結集の場としての『交流センター』を大きく発展させよう。動労千葉は鉄道労連と対決し清算事業団の仲間の奪還をかけてストも辞さず闘う」